



気管カニューレの交換

気管カニューレの交換について

気管カニューレは長期使用していると分泌物の汚れによる閉塞や感染の原因となるため定期的に交換する必要があります。また、気管切開部は定期的に清拭するなどして清潔を保ち感染予防する必要があります。カニューレの交換の目安は医師より指示を確認しておきましょう。

*カニューレ交換の間隔：

*交換する病院：

必要物品

●新しいカニューレ 種類：

サイズ：

- 固定用紐・首の保護用カバー等
- 潤滑剤（エンドルブリン）
- 清拭用のガーゼ・綿花など
- Yガーゼ
- 肩の下に入れる枕
- 吸引の準備
- 必要に応じ酸素やアンビューバッグの準備
- シリンジ（カフ付きのカニューレ使用時）

手順

◎吸引する人、交換する人、体を押さえる人など役割分担して行いましょう

【準備】

- ①まずよく手洗いをしましょう
- ②分泌物の程度呼吸状態はどのような様子か観察しましょう
肺の呼吸音がごろごろしていれば口鼻腔・気管吸引を十分にしておきましょう
- ③物品をすぐ使用できるように準備しておきましょう
 - ・カニューレの先端に潤滑剤をつける
 - ・固定紐を必要な長さよりやや長めに切りあらかじめ首の保護用カバーに通しておく
 - ・清拭用のタオルを準備する
 - ・吸引できる準備をしておく
 - ・アンビューや必要に応じ酸素の準備をする
 - ・カフ付きカニューレを使用している場合、挿入前に準備したカニューレにエアーを入れてみて、破損がないか確認する
 - ・カフ付きカニューレを使用している場合、現在挿入されているカニューレのエアーを抜いておく（事前にしっかり吸引する）
- ④酸素が必要なお子さんは準備しておく（医師の指示により）

<気管カニューレの交換をしましょう>

①体位は仰向けにして、首が十分に伸びるように 肩枕を入れます



②使用中のカニューレの紐をほどき、Yガーゼをはずします
そして、ゆっくりカニューレを抜きます。

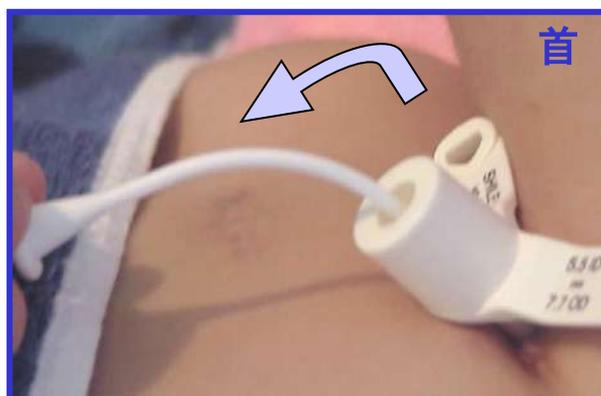
- 気管切開部の観察をしましょう
- 皮膚はどんな色ですか？
 - 肉芽はありませんか？
 - 出血やただれはありませんか？

抜いたカニューレ



③必要に応じて吸引しましょう

④新しいカニューレを持ち、先端を気管切開の穴にあて、
カニューレの湾曲に沿ってしっかりと挿入します
挿入できたらカニューレの内筒をはずします



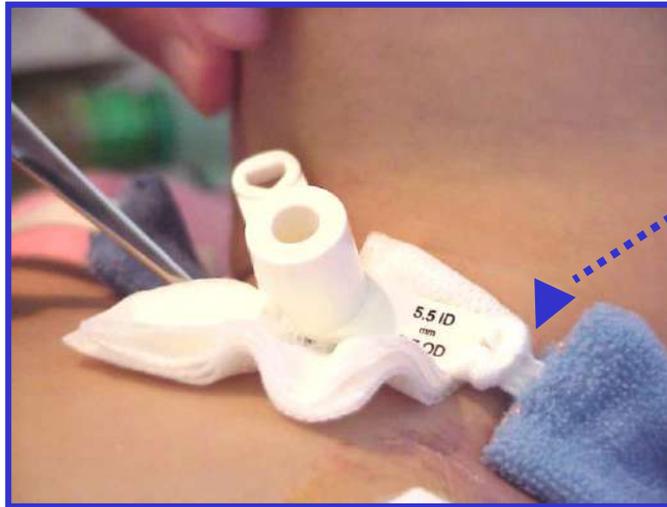
⑤呼吸器を使用されている方は呼吸器回路に接続してください

新しいカニューレが入った後は、呼吸する時に胸が左右ともしっかり上がっているか確認します

気切口に手をあてて呼吸できているか確かめて下さい

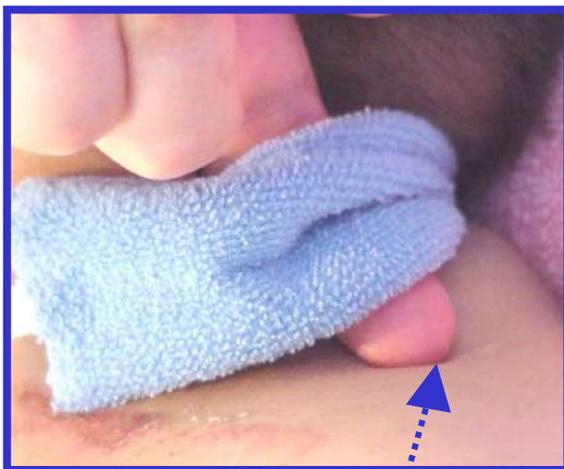
⑥紐が輪になっている方をカニューレの一方の穴に固定しましょう

Yガーゼ（切り込みガーゼ）をあてて、もう片方のカニューレの穴に紐を1本は下から、もう1本は上から通し、カニューレが抜けない程度に軽めに縛りましょう（仮固定）

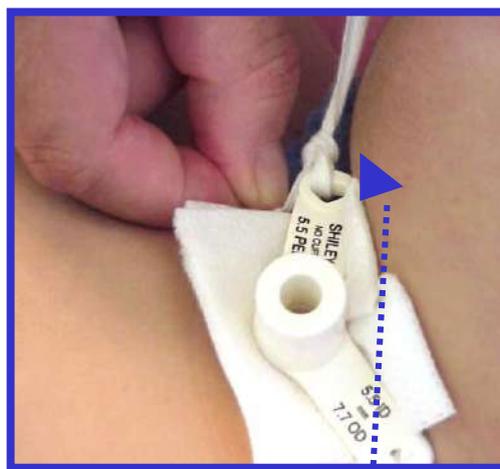


紐が輪になっている方

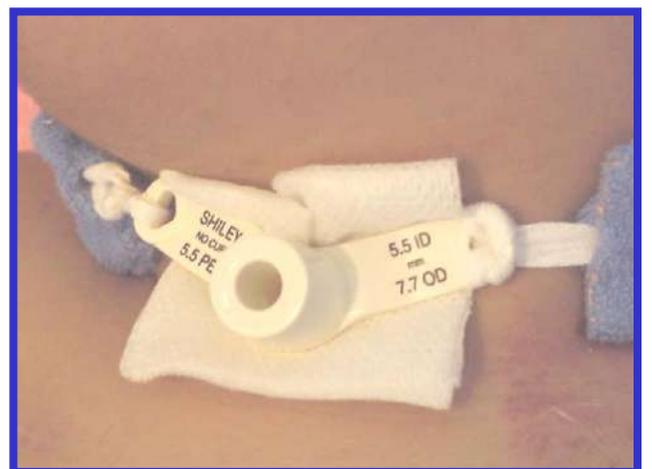
⑦枕をはずし紐と首の間に指が一本入る程度のきつさで固定用紐を固結びに結んでください
肩枕をはずすと紐はゆるむので注意してください



指1本入るきつさ



しっかり固く結んで!



できあがり

⑧この間、必要に応じ吸引をしてあげてください

⑨最後に呼吸状態を確認し吸気が左右差なく入っているか確認して下さい

日々の管理のポイント

- ◆ 固定用のひもの交換は汚れたり濡れてしまったりした時等に適宜交しましょう。
- ◆ 清拭・Yガーゼ交換（毎日）
 - ①気切孔近くの皮膚から外側に向かって清拭しましょう。
 - ②気管切開部周囲の皮膚の観察をしましょう。（発赤・肉芽など）
- ◆ 分泌物の汚染などにより気管切開部の周囲の皮膚炎を生じる場合があります。その場合適時消毒・Yガーゼの交換回数を増やすなど清潔を保てるようにしてください。赤くただれてしまったり感染を起こしてしまった場合は、医師の指示を確認しましょう。
- ◆ 予備カニューレについて
 - 予備カニューレは、緊急時に備えて必ず持ち歩きましょう。（固定用ひも、ハサミ、カフ用シリンジも一緒に）
 - 初回退院時に病棟から予備カニューレを受け取ってください。（カニューレ代は入院費に含まれます）
 - 定期交換時は予備カニューレで交換し、新しいものを病院から受け取ってください。
 - カフ付きカニューレ使用の方は入りにくいので予備カニューレはカフなしのものとなります。期限が残り1年となったら病院に交換をお申し出ください。保存状態が悪いものや開封したものは交換に応じかねます。自費購入していただくこととなりますのでご承知おきください。

何かお困りのことがございましたら、かかりつけ医か当院外来にご相談下さい。